

<<東北魂>>を鼓舞する
電子新聞

発行所 株式会社遊無有

〒 207-0015
東京都東大和市中央 1-539-15
<https://tohoku-saiko.jp/>
e-mail:y.s.yumuyu@ozzio.jp

東北再興

Re-Create , TOHOKU!

2 0 2 6 年（ 令 和 8 年 ） 1 月 16 日 木 曜 日

無料

第164号

毎月発行

発行 2026 年（令和 8 年）1 月 16 日 木曜日

【当新聞発行責任者 兼編集長兼記者紹介】

【砂越 豊】

宮城県生まれ。72 歳の新人映像作家兼プロデューサー兼作家。趣味は古代史・縄文文化研究。現在、埋もれた歴史を掘り起こす歴史書籍の執筆開始。また、企業価値増大と IPO サポートを専門とする会社を今年 4 月に起業。電子新聞『東北再興』の発行責任者兼編集者兼記者でもある。



今年もよろしく願い申し上げます

今年は冬眠しない熊たちとともに新年がスタートしました

新年開催の箱根駅伝では福島出身の選手・監督の活躍で

『駅伝王国・福島』が幕開け、大谷のWBC出場が決定

ラグビーの『釜石シーウェイブス』が新チームでスタート

さて、今年の東北はどんな一年になるのでしょうか？



ついに宮城・仙台にまで冬眠しないクマ出現
・NHK 仙台2026.1.8

当新聞予想通り冬眠しないクマ宮城にも出現

当新聞は昨年「冬眠しないクマ」の出現を予告し、警告してきた。残念ながら予想が的中し、たくさん出現してしまった。それも宮城県で「異常出没」として報道されている。今月六日夜には、仙台市

青葉区の仙台城跡近くで、道路脇の草を食べている体長1.5mの巨大なクマ1頭が目撃された。それ以外にも宮城県内では今年に入ってから六日時点で、去年の同じ時期と比べて数倍の十件ほどの目撃情報があるという。ケガ人などは出ていないのが幸いである。

秋田・岩手・山形・福島にも出現中

昨年は人的被害などが相次いだ秋田県では、今年に入って連日のように市街地での目撃情報が報告され、六日午後四時時点で足跡も含む目撃例はすでに八件に上っている。

五日夜には、大仙市の市道で、五十代女性の軽乗用車と体長約1mのクマがぶつかったという。女性にけがはなかった。

岩手県でも市街地等へのクマの出没が相次ぎ、県では昨年夏に県全域に出した「ツキノワグマの出没に関する警報」を、ある程度落ち着きを取り戻しつつあることから、今年始めより警報を注意報に切り替え注意を呼び掛けている。

他の東北各県情報では、山形県や福島県でもクマ目撃情報が相次いでいる。

冬眠しないクマも怖い
冬眠明けのクマも怖い

このように今年に入って冬眠しないクマ出現が頻発している。人的被害は出ていないが安心は禁物である。さらには、むやみに脅かすわけではないが、冬眠明けのクマにも注意が必要だ。いや、冬眠期間が例年より短くなって、人家が密集しているエリアに出現するようなことがあれば大変危険であり、入念な事前の対策が必要である。

(株)遊無有が企画・制作した映像DVDを新春特別価格(55%OFF)で提供！

東北の歴史シリーズ 鬼がつくった日本刀



価格：1500 円 / 本（税込・送料無料）
商品は申込返信メールに記載の振込先にて入金確認次第発送いたします

日本刀のルーツは古代東北にあり！数多くの資料を丹念に読み込み、多くの名刀を展示する宮城県北部の中鉢美術館の協力を得て、また宮城県北部の数々の遺構を尋ね歩いて制作した日本刀の定説をくつがえす歴史ドキュメンタリー映像。古代の奥州刀鍛冶は強制移住を強いられ全国に送られそこで作刀した。そうして日本刀が全国で作られたのだ。しかし彼らは「鬼」とさげすまれた。そうした境遇にもかかわらず、数々の名刀をつくり上げていった。その埋もれた歴史の発掘ドキュメンタリー（約 53 分）

お申込方法：購入者氏名・お届け先住所・電話番号・メールアドレス・購入希望の本数を明記して
右記メールアドレス宛お申込ください（送料無料） mail : y.s.yumuyu@ozzio.jp



箱根駅伝では学法石川出身の山口智規選手が活躍・・・読売新聞オンラインより

『駅伝王国一福島』の幕開けか？ 箱根駅伝では学法石川出身者が大活躍 学法石川は昨年末に高校駅伝男子優勝

箱根駅伝で福島県・学
法石川出身者が大活躍

新年早々二日の箱根駅伝の往路では学法石川高校出身の二選手が力走を見せた。早稲田大学二区の山口智規選手が、エースが集う「花の二区」でたすきを七位で受け、三位で次の選手に渡して見せ場を作った。

記録は今大会二区では日本人トップの成績だった。三区では、東京国際大の菅野裕二郎選手が順位を三つ上げて好走した。

さらには、駅伝選手ではないが、そこに出場した駒澤大学の藤田敦史監督は、福島県白河市出身の元マラソン選手であり、男子マラソン日本代表でもあり、かつては男子マラソン元日本記録保持者でもあった。

このように箱根駅伝では福島出身の選手や監督が活躍して、福島県勢の駅伝の強さを全国に広めたわけである。

昨年末の男子全国高校
駅伝で学法石川が優勝

実は新年の話ではなく、



昨年末の高校駅伝男子で学法石川が優勝・・・福島民友新聞より

昨年末の話になるのだが、第七十六回の男子全国高校駅伝競走大会が十二月二十一日、京都市のたけびしスタジアム京都を登着点にして開催されたのだが、そこでも福島県勢が大活躍した。

男子は七区間で45.195キロをタスキでつないだ。そこで、福島県代表として出場した学法石川高校は二時間零分三十六秒で大会史上初めて二時間一分を切り、大会新記録で福島県勢初の優勝を果たしたのだ。

学法石川は、一区増子陽太選手が日本選手歴代最速となる二十八分二十秒の好記録で序盤から大きくリードした。

その後も先頭でつなぐと、トップを保ったまま後続にたすきを渡し、大会新記録で優勝した。圧巻だった。

ちなみに、一区を走ったこの増子陽太選手は早稲田大学への入学が決まっており、来年の箱根駅伝にも出場する予定と騒がれており、大いに活躍することを期待されている。

ついであるが、二位には宮城県の仙台育英高校が入り、これも同じく大会新記録での東北勢のワンツーフィニッシュとなった。

東北勢二チームが大会新記録でワンツーフィニッシュとは快挙ではないか？東北にとっては、こうした結果もおそらく初めてのことであり、まことに喜ばしい限りである。

福島県が『駅伝王国』
に

このように、最近、各駅伝大会で福島県の学法石川高校の選手やOB、その他福島県出身の関係者、宮城の選手たちの活躍が目立っている。

これまでは駅伝といえば長野県等が有名だったが、今後は福島県がその座を奪い『駅伝王国』になるかもしれないという期待がある。そこに宮城県勢も加えるとさらに強力となる。

今後ぜひ活躍を応援したいし、駅伝界の『駅伝王国』として福島県が大々的に名乗り出て欲しいものだ。

WBCに大谷選手が出場決定 どんな活躍を見せてくれるか 投打の二刀流になるのか？

WBCは今年三月開催

今年の三月に開催される第六回ワールドベースボールクラシック(WBC)だが、日本、アメリカ、プエルトリコが開催国となる。

前回の第五回大会は二〇二一年に開催される予定だったが、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により無期限延期となり、最終的に二〇二三年に開催された。

第六回大会は元々二〇二五年に予定されていたが、前回大会がずれ込んだため、一年遅らせて今年開催となった。

今年三月のWBCに
大谷選手が参加表明



前回大会の優勝シーン・・・WORLD BASEBALL CLASSICより

そんななかで、大谷翔平選手は先月二十四日WBCに参加することを自身のインスタグラムで発表した。大谷選手は「日本を代表して再びプレーできることを嬉しく思います」との一文をつづった。二大会連続二度目の出場となる。

忘れられない前回大会のラストシーン

前回大会では、侍ジャパンがMLBを代表する選手たちを揃えたアメリカを3対2で下し、七戦全勝で三大会ぶり三回目の優勝を果たした。

あまりにもドラマチックな展開で、日本の野球に関わるすべての人にとつての悲願の瞬間を共有した。

一点差で迎えた最終回、

大谷選手(エンゼルス)は二死走者なしから同僚でアメリカの主将を務めるマイク・トラウトと対峙。フルカウントからキレ味鋭いスライダーでトラウトのバットが空を切ると、大谷はグラブと帽子を放り投げ感情を爆発させると、選手たちが勢いよく飛び出し中心に歓喜の輪ができたシーンはいまでも忘れられない。

二刀流かどうか不明

打者と投手の二刀流での出場かどうかは不明だが、いづれにしてもワクワク・ドキドキしながら三月の開催を待つことにしよう。

釜石シーウェイブス新チーム HCも変わり新チームに！ 今シーズンはD2上位狙う

東北唯一のラグビー「リーグワン」所属のチームである「釜石シーウェイブス」。今シーズンからヘッドコーチが変わったし、選手も一部入れ替わった。

ヘッドコーチの「トウタイ・ケフ氏」は、オーストラリア代表「ワラビーズ」で六十キャップ、二〇一六から二〇二三年まではトンガのヘッドコーチもつとめているのでチーム作りに期待ができる。

今シーズンはまだ三試合消化で一勝二敗だが、試合内容も充実し、三戦目は非常に惜しかった。

シーズン目標はディビジョン2の四位以内だが、十分に可能だと思われる。ぜひオール東北で応援しよう。

パブリックビューイング in 釜石PIT vol.1

Supported by J SPORTS

NTTジャパンラグビー リーグワン2025-26 ディビジョン2 第4節

1.17円

11:30 開場
12:00 KICK OFF

VS 豊田自動織機シャトルズ愛知

ビジター戦

入場無料

来場者全員にスタンプカードを進呈
来場するほどお得！スタンプをためて特典GET！
※飲食や飲料の持ち込み可能です。(アルコールは不可)

主催：一般社団法人釜石シーウェイブス RFC / 協力：釜石ラグビー応援団・釜石まちづくり株式会社

1/17の試合情報・・・釜石シーウェイブスより

東北水産業の未来 その⑤

東北は世界に先駆けての養殖産業を仕掛けられるか

【前編】 不漁続きの「サケ漁」の原因は何か？対策はあるか？

サケの筋子が高すぎて正月食べられなかった

筆者はサケの筋子が大好きだが、今シーズンの筋子は高価すぎてとても買えなかった。

日本酒のアテには最高だし、雑煮に入れたらたまらない。白いご飯に筋子載せて食べるのもたまらなく好きだった。

高齢になると塩分に気をつけるといわれても、美味そうな筋子を見つければ、つい手が伸びてしまうのが筋子だった。

しかし今年の正月にはそうした楽しみが完全に奪われた。まるで人生の楽しみその半分を失った気分だった。その原因はこのところ

のサケの不漁である。

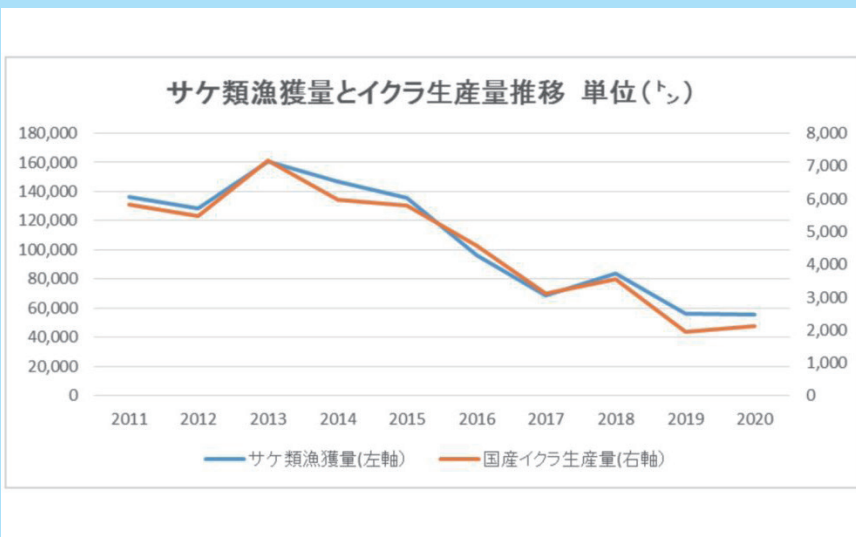
新潟県村上市の状況

サケの不漁は本場の北海道でも東北でも同じようだ。とにかく全国的に漁獲量が激減している。

そこで、東北ではないが、新潟でもサケ漁が営まれているが、その状況を見てみよう。

新潟県・村上市の三面川では、サケの記録的な不漁が続いている。二〇二五年の漁獲量は例年の十分の一まで激減したという。

三面川では二〇一七年に五万匹近くの漁獲量があったが、三年ほど前からは一万匹を切っている。このシーズン、今月十日までに捕獲されたサケはわ



サケ漁獲量とイクラ生産量グラフ
・片野 歩 Fisk Japanより



イクラになる前の原卵・片野 歩 Fisk Japanより



サケ不漁の背景を探る海の状態・新潟テレビ21より



日本のサケが小型化している・・「ふいっしんぐっど！」
(fishingood.com/) より

ずか千七百七十八匹。いまや一匹もとれない日もある。一日に千匹以上が獲れ、大漁にわいたかつての姿が信じられない状況だという。状況はどんどん悪化しているのである。

このままではサケが幻の魚となってしまうかもしれないと、関係者が苦悩しているという。

国の研究機関「水産研究・教育機構」によれば、二千二十五年に日本の沿岸や河川で獲られたサケ数は平成以降で最少で、例年の八分の一近くに減っているという。

新潟県水産海洋研究所によれば、地球温暖化により海水温がサケの生息できる温度を超えたのではないかと指摘している。

二〇三三年ではなく、徐々に温度が高まっていて、近年の状況がサケの生息には適さない温度帯になってきたのではないかと指摘。

生まれた川を下って海に出たサケは、オホーツク海を通って冬を北太平洋で過ごし、ベーリング海に到達。その後は、三十四度の水温を求め、夏はベーリング海・冬はアラスカ湾と北の海を行き来すると言われている。

新潟県水産海洋研究所によれば、地球温暖化により海水温がサケの生息できる温度を超えたのではないかと指摘している。

二〇三三年ではなく、徐々に温度が高まっていて、近年の状況がサケの生息には適さない温度帯になってきたのではないかと指摘。

生まれた川を下って海に出たサケは、オホーツク海を通って冬を北太平洋で過ごし、ベーリング海に到達。その後は、三十四度の水温を求め、夏はベーリング海・冬はアラスカ湾と北の海を行き来すると言われている。

新潟県水産海洋研究所によれば、地球温暖化により海水温がサケの生息できる温度を超えたのではないかと指摘している。

二〇三三年ではなく、徐々に温度が高まっていて、近年の状況がサケの生息には適さない温度帯になってきたのではないかと指摘。

生まれた川を下って海に出たサケは、オホーツク海を通って冬を北太平洋で過ごし、ベーリング海に到達。その後は、三十四度の水温を求め、夏はベーリング海・冬はアラスカ湾と北の海を行き来すると言われている。

シリーズ・東北の人口減少対策 その①

何をして東北の人口減少に歯止めがかからない？ 最終的な方策を探る前にAIで現状分析してみよう

新年にあたり東北の人口減少を考える

東北の人口減少に歯止めがかからない。考えつくたくさんの方策を打つても止まらない。

さまざまな移住策、工場誘致策、移住補助金までつけても効き目がない。いったいどうすれば減少が止まるのだろうか？

新年早々から、東北にとって、いや東北の再興についての最も根幹をなす課題をシリーズで考えてみることにする。まずは、あらためて現状認識から始めよう。

AIで東北の人口減少について聞く

最近、筆者も「AI」を活用するようになった。まとめるのにとでも便利である。そこで東北の人口減少問題の現状と未来予測をAIに聞いてみることにした。

東北6県の人口と65歳以上の割合の推移 (国立社会保障・人口問題研究所の推計)				
	2020年	30年	40年	50年
青森	123万人 (33.7%)	107 (38.6)	91 (43.9)	75 (48.4)
岩手	121 (33.6)	106 (37.6)	92 (41.8)	78 (45.9)
宮城	230 (28.1)	217 (31.2)	201 (35.4)	183 (39.4)
秋田	96 (37.5)	81 (42)	68 (45.9)	56 (49.9)
山形	106 (33.8)	94 (37.6)	82 (40.9)	71 (44.3)
福島	183 (31.7)	164 (36.1)	144 (40.3)	124 (44.2)

(注) カッコ内は65歳以上の人口割合

東北の 50 年人口・・・
日本経済新聞より

最初の「AI」への質問：「東北の人口減少推移」

「AI」によれば、東北地方の人口は、一九九五年の千二百三十二万人をピークに減少傾向にあり、二〇二〇年には千八十一万人となった。

二〇三〇年には1千万人を下回り、二〇五〇年には七百四十一万人まで減少すると予測されている。全国と比較して十五年早く人口減少が始まっている。

念のため、総務省の統計データを調べたら、二〇二二年の人口推計では、東北六県の人口は計八百四十二万六千人で、二〇二一年から九万三千人減った。県ごとの減少率では、全国最大の秋田が1.59%で二〇二一年(1.52%)から拡大。全国二番目の青森(1.39%)、同三番目の岩手(1.32%)も減少率が拡大した。宮城の減少率は0.44%で、二〇二一年(0.51%)から縮小した。

「AI」のデータに誤りを発見した。とはいえ、興味深いので「AI」の回答続行。

「AI」回答―年齢構成の変化

人口減少に伴い、人口構造も大きく変化。年少人口(十四歳以下)：二〇二〇年の百二十万人から二〇五〇年には六十二万人と約49%減少する見込み。

生産年齢人口(十五～六十四歳)：二〇二〇年の六百十二万人から二〇五〇年には三百五十四万人へと約43%減少する見込み。

老年人口(六十五歳以上)：二〇二〇年の三百四十九万人から二〇二五年には三百五十二万人と増加した後、二〇二五年をピークに減少傾向となり、二〇五〇年には三百二十五万人になると予測。

「AI」回答―高齢化率

老年人口の減少幅が年少人口や生産年齢人口ほど大きくないため、高齢化率は上昇すると予想。二〇二〇年の32.3%から二〇五〇年には43.8%に達する見込み。二〇一九年時点でも、東北地方の高齢化率は32%と全国平均(28.4%)より高い水準にある。

「AI」回答―人口減少の要因

首都圏への人口流出：高度経済成長期から現在に至るまで、特に若者や女性の首都圏への流出が顕著。

少子高齢化：全国に先駆けて少子高齢化が進行しており、労働力人口の減少や社会保障費の増大といった課題に直面している。

東北地方の人口減少には、主に「少子高齢化」と「若者の首都圏への流出」という二つの大きな要因が背景にある。

「AI」回答―晩婚化と高学歴化

生活文化の向上に伴い、晩婚化や高学歴化が進んだ結果、出生数が減少。

「AI」回答―若者の首都圏への流出

特に若者や女性が、やりたい仕事ややりがいのある仕事で地方で見つけにくいと感じ、首都圏へ流出する傾向がある。東北圏から東北圏外への転出者の約七割が関東圏へ移動し、そのうち六割が首都圏に集中。

首都圏との所得格差も、若者流出の一因。

東日本大震災が発生したことにより、復興は進められたものの、全国平均を上回る勢いで人口減少が加速。若者の流出を防ぎ、地域に定着してもらうためには、多角的なアプローチが必要。

企業や自治体、地域住民が連携し、若者にとって魅力的な環境を創出することが重要。

「AI」回答―企業が取り組む若者定着策

企業側では、若者が長く働きたいと思えるような職場環境やキャリア支援が求められる。

働きがいと処遇の改善としての給与・待遇の改善：業界水準を下回らない給与体系や充実した福利厚生は、若者の定着を促す基本的な条件。

やりがいの創出：若者が仕事にやりがいを感じられるよう、キャリアアップの機会を提供したり、成長を実感できるような目標設定や評価制度を導入することが重要。

心理的安全性と良好な人間関係：コミュニケーションツールを導入し、気軽に相談できるメンター制度などを活用して、職場の雰囲気や働きやすさを向上させる。

生活環境の整備として、インフラの維持・整備：老朽化したインフラの整備や空き家対策など、将来的に安心して暮らせる環境を整えることが重要。

子育て支援の充実：安心して子育てができる環境を整備するため、子育て世代への支援制度や、保育施設の充実などを進める。

住環境の整備：若者向けの公営住宅の整備や、移住者への補助金・就業支援の仕組みを整えることも有効。

地域とのつながり強化としての地域コミュニティの活性化：地域住民が移住者を受け入れるための協議の場を設け、移住者と住民の顔合わせの機会を作ることや、地域に溶け込みやすくなる。

「AI」回答―地域・自治体が取り組む若者流出対策

自治体は、雇用機会の創出だけでなく、生活の利便性や子育て支援など、地域の魅力を高める施策を展開。

雇用創出と情報発信としての企業誘致と新規産業の創出：新しい産業を誘致し、雇用を創出することで、若者が地元で働ける選択肢を増やす。特にIT分野など、若者が興味を持つ分野の企業誘致も有効。

地元企業の魅力発信：地元企業に関する情報発信を強化し、職種や仕事内容を具体的に伝えることで、若者の地元企業への就職意識を高める。

インターンシップ・研修の機会提供：若者が地元企業で働くきっかけを作るため、インターンシップや研修制度を充実させる。

生活環境の整備として、インフラの維持・整備：老朽化したインフラの整備や空き家対策など、将来的に安心して暮らせる環境を整えることが重要。

子育て支援の充実：安心して子育てができる環境を整備するため、子育て世代への支援制度や、保育施設の充実などを進める。

住環境の整備：若者向けの公営住宅の整備や、移住者への補助金・就業支援の仕組みを整えることも有効。

地域とのつながり強化としての地域コミュニティの活性化：地域住民が移住者を受け入れるための協議の場を設け、移住者と住民の顔合わせの機会を作ることや、地域に溶け込みやすくなる。

「AI」回答―企業が取り組む若者流出対策

自治体は、雇用機会の創出だけでなく、生活の利便性や子育て支援など、地域の魅力を高める施策を展開。

企業は、デジタル化の実施率やDXの認知度が全国平均に比べて低い傾向にある。企業が新しい技術を活用してビジネスモデルを変革するDXの推進は途上にあり、IT専門人材も首都圏に偏在しているため、誘致した企業のDX推進を支援するため

地元への愛着形成：高校生を対象に、地域の魅力や産業に触れる機会を提供し、地元への愛着を育む取り組みも重要。

企業誘致が成功し大企業が地域に立地すると、既存企業にとっては人材確保が難しくなることがある。これにより地域全体で人材が不足する事態に陥る可能性があり、人材を求めて誘致したはずが、逆に東北圏の魅力が低下する恐れもある。

特定の産業分野に集中して企業誘致を行った場合、その産業の景気変動が地域経済全体に大きな影響を与えるリスクがある。例えば、半導体産業のように世界的な競争が激しい分野では、常に技術革新や市場の変化に対応していく必要がある。

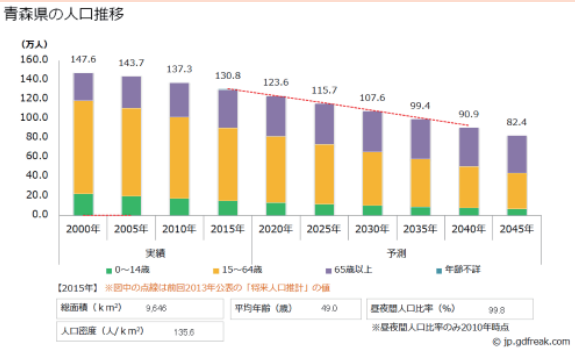
デジタル化の遅れとDX人材の不足・・・東北地方の企業は、デジタル化の実施率やDXの認知度が全国平均に比べて低い傾向にある。企業が新しい技術を活用してビジネスモデルを変革するDXの推進は途上にあり、IT専門人材も首都圏に偏在しているため、誘致した企業のDX推進を支援するため

地元への愛着形成：高校生を対象に、地域の魅力や産業に触れる機会を提供し、地元への愛着を育む取り組みも重要。

企業誘致が成功し大企業が地域に立地すると、既存企業にとっては人材確保が難しくなることがある。これにより地域全体で人材が不足する事態に陥る可能性があり、人材を求めて誘致したはずが、逆に東北圏の魅力が低下する恐れもある。

「AI」回答―企業誘致の新たな課題

特定の産業分野に集中して企業誘致を行った場合、その産業の景気変動が地域経済全体に大きな影響を与えるリスクがある。例えば、半導体産業のように世界的な競争が激しい分野では、常に技術革新や市場の変化に対応していく必要がある。



青森県の人口推移・・・GD Freak より

仙台の卦体神信仰

卦体神とは

卦体神と書いて、「けたいがみ」と読む。略してか訛ってか「けでがみ」とも呼ばれる。仙台に伝わる十二支の守り本尊信仰である。他の地域の人と初詣の話をしていて、「へえ」と珍しがられるのがこの卦体神の話である。子どもの頃は「卦体神」という言葉自体は知らなかったが、仙台には十二支それぞれ守り本尊を祀った寺社があり、そこにお参りに行くのだということは、子どもの頃から両親に連れられて行っていたので知っていた。別に面倒とかは思わず、そういうものだと思っていた。

くれる神仏を「守り本尊」として崇拝する信仰は古来あった。十二支と守り本尊が組み合わせられて広まったのは江戸時代になってからのことであるようだが、仙台の御城下では、これら千支の守り本尊は「卦体神」と呼ばれ、特定の寺社と結びついて人々の信仰を集めたということである。

仙台の卦体神

仙台の千支ごとの卦体神

大満寺に隣接する愛宕神社が卦体神とされる。愛宕神社の祭神は軻遇土神（かぐつちのかみ）であるが、明治時代の神仏分離令以前の日本では、仏が日本の神の姿となつて現れたとする本地垂迹（ほんちすいじやく）説に基づく神仏習合が一般的であり、その思想の下では、普賢菩薩は軻遇土神の本地仏とされていた。また実際に普賢菩薩を祀った時代もあったとのことである。それで現在でも仙台では愛宕神社が辰年と巳年の卦体神とされているのである。

午年の守り本尊は勢至菩薩で、青葉区北目町にある北目山賢聖院二十三夜堂が卦体神である。未年と申年の守り本尊は大日如来で、青葉区一番町にある柳町大日堂が卦体神と聞いているが、調べてみると他に同じ青葉区の五橋にある隆興院大日堂と八幡にある寛行院大日如来堂も同様に卦体神とされている。また、西年の守り本尊は不動明王で、青葉区中央にある三瀧山不動院が卦体神とされているが、巳年と申年の卦体神と同様に、西年の卦体神も調べてみると、この三瀧山不動院を含めて三箇所あり、他に同じ青葉区にある荒巻三居沢の三居沢大聖不動堂と中山にある中山鳥滝不動堂も卦体神とされている。戌年と亥年の守り本尊は阿弥陀如来で、青葉区八幡にある大崎八幡宮が卦体神とされる。これ

合の考え方では八幡神は阿弥陀如来の化身（垂迹）であり、それでご大崎八幡宮が仙台の戌年と亥年の卦体神となつているのである。仙台の和菓子店、白松がモナカ本舗がこれらの卦体神のマップを作成してくれている。それを見て、それぞれの卦体神の位置関係などを見てみても、青葉神社、大崎八幡宮、仙台城本丸、愛宕神社、榴岡天満宮、仙台東照宮が描く六芒星のような規則性は見い出せなさそうである。ただし、この地図に仙台城は記されていないが、仙台城のある位置から見ると、辰巳（南東）の方向に辰年と巳年の卦体神である愛宕神社が、戌亥（北西）の方向に戌年と亥年の卦体神である大崎八幡宮が位置しているように見えるのは興味深い。これらは偶然ではなく、意識的にこの場所に置かれたのではないかと考えられる。

津軽では「津軽 代様」と呼ばれていた。自分の生まれた年の千支の守り本尊が「二代様」と呼ばれ、その人一代、つまり生まれてから亡くなるまで守ってくれる存在として認識されていたようである。会津では、会津十二支守り本尊として、やはりそれぞれの千支に応じた寺社が守り本尊として定められていた。仙台と津軽、会津との違いとしては、仙台の卦体神が仙台の市街にのみ存在するのに対して、津軽の一代様、会津の守り本尊は、それぞれの城下町である弘前、会津若松の外まで広がって存在していることであつた。東北以外については分からないが、恐らくは旧城下町を中心に、同様の風習がある地域は他にもあるのではないだろうか。

支に加えて十干というのもあり、これらの組み合わせで年月日が表記されていた。十干と十二支を合わせて千支（えと）と呼ぶ。今も見られるように十二支と言えはそれぞれ固有の動物で表されるが、それが十二支誕生の頃からなのか、後で当てはめられたのかについては諸説あり、確定していないようである。

方位としての十二支を見ると分かるのだが、子は北、卯は東、午は南、酉は西であるが、丑と寅の中間が北東（丑寅（うしとら））、辰と巳の中間が南東（辰巳（たつみ））、巽とも書く、未と申の中間が南西（未申（ひつじさる））、坤とも書く、戌と亥の中間が北西（戌亥（いぬい））、乾とも書くで、一般的な八方位に十二支を当てはめてみると、丑と寅、辰と巳、未と申、戌と亥で二つの方位を表していることが分かる。これらの年の守り本尊がそれぞれ共通しているのは、どうもこの方位としての十二支の扱いに関係しているのではないかと考えられる。

また、次の関心事として、なぜそれぞれの年にそれぞれ仏が割り振られたのかである。これは全国共通で、厳格に定められている様が見える。しかし、その由来はよく分からない。インドの十王思想が日本に来て十三仏信仰となつたが、それとの関係は考えられる。なぜなら、十三仏とは、不動明王、釈迦如来、文殊菩薩、普賢菩薩、地藏菩薩、弥勒菩薩、薬師如来、観世音菩薩、勢至菩薩、阿弥陀如来、阿しゅく如来、大日如来、虚空蔵菩薩の諸尊で、ここに十二支の守り本尊が全て含まれているからである（千手観世音菩薩

後天八卦方位における卦名と一致しているからである。考えてみれば、仙台の守り本尊が卦体神と呼ばれているのは、まさに八卦の影響を受けているということを如実に示しているのではないか。卦体神という言葉は八卦の中にはないが、卦体とは易の算木に現れた卦の形のことを指している。そこから転じて縁起や不思議の意味合いもあるとのことである。

そこから考えると、卦体神とは自分と縁起のある神仏ということになりそうである。ただ、卦体神という言葉は、少なくとも私が調べた限りでは仙台以外では使われておらず、なぜこだけこのような呼び方がされているのかは不明である。

また、次の関心事として、なぜそれぞれの年にそれぞれ仏の仏が割り振られたのかである。これは全国共通で、厳格に定められている様が見える。しかし、その由来はよく分からない。インドの十王思想が日本に来て十三仏信仰となつたが、それとの関係は考えられる。なぜなら、十三仏とは、不動明王、釈迦如来、文殊菩薩、普賢菩薩、地藏菩薩、弥勒菩薩、薬師如来、観世音菩薩、勢至菩薩、阿弥陀如来、阿しゅく如来、大日如来、虚空蔵菩薩の諸尊で、ここに十二支の守り本尊が全て含まれているからである（千手観世音菩薩



は観世音菩薩の化身とされる。十三回は追善供養の根拠ともされているが、この追善供養のそれぞれに対応する十三仏の順番と十二支の守り本尊の順番との間にも特段関係はなさそうである。

今も根付く卦体神信仰

そのようなわけで、調べても謎が残るこの仙台の卦体神信仰だが、由来が分からなくとも今もすっかり地域に根付いているのは興味深い。とりあえず私は、いつもお参りしている三瀧山不動院に加えて、今回調べて分かったあとの二つ、三居沢大聖不動堂と中山鳥滝不動堂にも足を運んでみようと思う。

他の地域にも似た風習が

なお、さらに調べてみると、もちろん「卦体神」とは呼ばれてはいないが、他の地域の中にも、仙台のこのような風習と似たような風習がある地域があることが分かった。具体的には、東北だと弘前と会津である。仙台との共通項としては、いずれも江戸時代の城下町であることである。仙台と同様に、江戸時代に広まったものと考

守り本尊が生まれた経緯

ところで、十二支の守り本尊を見て気づくことがある。それは、子年、卯年、午年、酉年にはそれぞれ一体ずつ守り本尊がいるのに対して、丑年と寅年、辰年と巳年、未年と申年、戌年と亥年はそれぞれ二つの年に共通の守り本尊であるということである。

元々十二支は古代中国で、最初は日付を表し、そこから年月や時刻や方位を表すのに用いられた概念で、それが日本にも伝わり、活用されてきた。ちなみに、十二

執筆者紹介

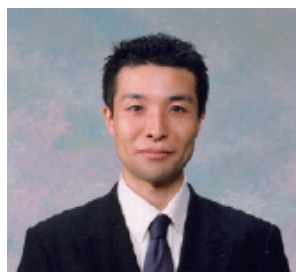
大友浩平

（おおもともこうへい）

奥州仙臺の住人。普段は出版社に勤務。東北の人と自然と文化が大好き。趣味は自転車と歌と旅。

「東北ブログ」

http://blog.livedoor.jp/anagma/



Face book
https://www.facebook.com/kouhei.ootomo

大満寺に隣接する愛宕神社が卦体神とされる。愛宕神社の祭神は軻遇土神（かぐつちのかみ）であるが、明治時代の神仏分離令以前の日本では、仏が日本の神の姿となつて現れたとする本地垂迹（ほんちすいじやく）説に基づく神仏習合が一般的であり、その思想の下では、普賢菩薩は軻遇土神の本地仏とされていた。また実際に普賢菩薩を祀った時代もあったとのことである。それで現在でも仙台では愛宕神社が辰年と巳年の卦体神とされているのである。

午年の守り本尊は勢至菩薩で、青葉区北目町にある北目山賢聖院二十三夜堂が卦体神である。未年と申年の守り本尊は大日如来で、青葉区一番町にある柳町大日堂が卦体神と聞いているが、調べてみると他に同じ青葉区の五橋にある隆興院大日堂と八幡にある寛行院大日如来堂も同様に卦体神とされている。また、西年の守り本尊は不動明王で、青葉区中央にある三瀧山不動院が卦体神とされているが、巳年と申年の卦体神と同様に、西年の卦体神も調べてみると、この三瀧山不動院を含めて三箇所あり、他に同じ青葉区にある荒巻三居沢の三居沢大聖不動堂と中山にある中山鳥滝不動堂も卦体神とされている。戌年と亥年の守り本尊は阿弥陀如来で、青葉区八幡にある大崎八幡宮が卦体神とされる。これ

津軽では「津軽 代様」と呼ばれていた。自分の生まれた年の千支の守り本尊が「二代様」と呼ばれ、その人一代、つまり生まれてから亡くなるまで守ってくれる存在として認識されていたようである。会津では、会津十二支守り本尊として、やはりそれぞれの千支に応じた寺社が守り本尊として定められていた。仙台と津軽、会津との違いとしては、仙台の卦体神が仙台の市街にのみ存在するのに対して、津軽の一代様、会津の守り本尊は、それぞれの城下町である弘前、会津若松の外まで広がって存在していることであつた。東北以外については分からないが、恐らくは旧城下町を中心に、同様の風習がある地域は他にもあるのではないだろうか。

支に加えて十干というのもあり、これらの組み合わせで年月日が表記されていた。十干と十二支を合わせて千支（えと）と呼ぶ。今も見られるように十二支と言えはそれぞれ固有の動物で表されるが、それが十二支誕生の頃からなのか、後で当てはめられたのかについては諸説あり、確定していないようである。

方位としての十二支を見ると分かるのだが、子は北、卯は東、午は南、酉は西であるが、丑と寅の中間が北東（丑寅（うしとら））、辰と巳の中間が南東（辰巳（たつみ））、巽とも書く、未と申の中間が南西（未申（ひつじさる））、坤とも書く、戌と亥の中間が北西（戌亥（いぬい））、乾とも書くで、一般的な八方位に十二支を当てはめてみると、丑と寅、辰と巳、未と申、戌と亥で二つの方位を表していることが分かる。これらの年の守り本尊がそれぞれ共通しているのは、どうもこの方位としての十二支の扱いに関係しているのではないかと考えられる。

また、次の関心事として、なぜそれぞれの年にそれぞれ仏が割り振られたのかである。これは全国共通で、厳格に定められている様が見える。しかし、その由来はよく分からない。インドの十王思想が日本に来て十三仏信仰となつたが、それとの関係は考えられる。なぜなら、十三仏とは、不動明王、釈迦如来、文殊菩薩、普賢菩薩、地藏菩薩、弥勒菩薩、薬師如来、観世音菩薩、勢至菩薩、阿弥陀如来、阿しゅく如来、大日如来、虚空蔵菩薩の諸尊で、ここに十二支の守り本尊が全て含まれているからである（千手観世音菩薩

後天八卦方位における卦名と一致しているからである。考えてみれば、仙台の守り本尊が卦体神と呼ばれているのは、まさに八卦の影響を受けているということを如実に示しているのではないか。卦体神という言葉は八卦の中にはないが、卦体とは易の算木に現れた卦の形のことを指している。そこから転じて縁起や不思議の意味合いもあるとのことである。

そこから考えると、卦体神とは自分と縁起のある神仏ということになりそうである。ただ、卦体神という言葉は、少なくとも私が調べた限りでは仙台以外では使われておらず、なぜこだけこのような呼び方がされているのかは不明である。

また、次の関心事として、なぜそれぞれの年にそれぞれ仏の仏が割り振られたのかである。これは全国共通で、厳格に定められている様が見える。しかし、その由来はよく分からない。インドの十王思想が日本に来て十三仏信仰となつたが、それとの関係は考えられる。なぜなら、十三仏とは、不動明王、釈迦如来、文殊菩薩、普賢菩薩、地藏菩薩、弥勒菩薩、薬師如来、観世音菩薩、勢至菩薩、阿弥陀如来、阿しゅく如来、大日如来、虚空蔵菩薩の諸尊で、ここに十二支の守り本尊が全て含まれているからである（千手観世音菩薩

後天八卦方位における卦名と一致しているからである。考えてみれば、仙台の守り本尊が卦体神と呼ばれているのは、まさに八卦の影響を受けているということを如実に示しているのではないか。卦体神という言葉は八卦の中にはないが、卦体とは易の算木に現れた卦の形のことを指している。そこから転じて縁起や不思議の意味合いもあるとのことである。

そこから考えると、卦体神とは自分と縁起のある神仏ということになりそうである。ただ、卦体神という言葉は、少なくとも私が調べた限りでは仙台以外では使われておらず、なぜこだけこのような呼び方がされているのかは不明である。

また、次の関心事として、なぜそれぞれの年にそれぞれ仏の仏が割り振られたのかである。これは全国共通で、厳格に定められている様が見える。しかし、その由来はよく分からない。インドの十王思想が日本に来て十三仏信仰となつたが、それとの関係は考えられる。なぜなら、十三仏とは、不動明王、釈迦如来、文殊菩薩、普賢菩薩、地藏菩薩、弥勒菩薩、薬師如来、観世音菩薩、勢至菩薩、阿弥陀如来、阿しゅく如来、大日如来、虚空蔵菩薩の諸尊で、ここに十二支の守り本尊が全て含まれているからである（千手観世音菩薩

後天八卦方位における卦名と一致しているからである。考えてみれば、仙台の守り本尊が卦体神と呼ばれているのは、まさに八卦の影響を受けているということを如実に示しているのではないか。卦体神という言葉は八卦の中にはないが、卦体とは易の算木に現れた卦の形のことを指している。そこから転じて縁起や不思議の意味合いもあるとのことである。

魁帥、日高見漢の意地の果て― 「馬の司の国」東北の事

無事新たな年を迎える事ができ、本年も最初の一筆であるが、早いもので昨年初めに本誌にて巳年の始まりとして東北の蛇神についての記事を書いてから一年が経った事になる―そこにきて今年は午年となるから馬について書こうとなればいかにも予定調和的ではあるが、東北に特に関連がない場合はいくら干支の動物としてみるつもりはない―しかし生憎というのか、馬が東北にとつてある意味、蛇以上に関係が深い存在ではある事は、東北の歴史あるいは馬そのものについて多少でも知る人ならば異論はあるまいとも思う。

アンタジー小説の『指輪物語』における、勇壮なる騎兵団を誇る王国・ローハンは民が馬と一体になって広大な平原を駆けるとされ、「馬の司の国」と形容された―まるでそれは、同様に戦士らが人馬一体となり、騎射においては百発百中、一兵の戦力は大和兵千人のそれに相当する（一騎当千）と謳われ畏られた、他ならぬこの東北の地を駆けた「蝦夷」たちの事のようではないか・・本稿では干支の動物である牛（馬）の事は勿論、あらためて彼らを相棒とした人間集団・蝦夷の事始めに迫りその血とも魂ともつかぬ未裔たる東北人としての意識を新たにしてみたいと思う。

※



奥羽越現像氏紹介

一九七〇年山形県鶴岡市生。札幌、東京を経て、全国の旅の末、仙台に移住。どの本屋に入っても、とりあえず郷土本の棚に向かつて立ち読みを始める東北好きである。

筆者が成人後に北海道のアイヌ民族という存在に魅かれた事を契機に己が郷土である東北における基層的民族概念としての「蝦夷」について知る事になりそろそろ三十年が経つ。その間青森県の三内丸山遺跡の発掘・研究や高橋克彦氏原作の蝦夷を主人公とした物語の映像化など多方面の進展があつて、古代東北のイメージは随分様変わりし「馬と金、そして鉄をダイナミツクに活用して繁栄していた」と評価する東北観が少なくとも歴史関連の界限では認識・定着してきた感はある。領内に豊富に産出した金や鉄はともかくとして何故馬が東北の名産物となつたのかという問いは、そのまま「蝦夷とは何者だったのか」という謎に迫る鍵のようにも思える。

馬とは、人類にとつて殊の外特別な動物だ―現代でいえば人々にとつてのスポーツカー乃至あらゆる作業車の存在であり、状況次第では戦車ともなり得た。つまり馬とは概念的な「クルマ」の始まりであり、それは人間を人間以上の速力や建設力・破壊力を備えた超人的存在に変えてしまう能力の絶大なる拡張装置であつた。人間は馬を制御し操る方法を学び、馬もまた人間に応える知能や性格・身体能力を備えるという、極めて奇跡的にして幸運な相性に恵まれた二者であつたと言えよう。

馬を駆使したという時点で、東北の蝦夷が後の北海道の蝦夷つまりアイヌとは別の集団であるという主張もあり、むしろその優れた騎馬技術から大陸より北方から渡来したツングース系民族だったのではないかとの説も出されるが、当時の東北と北海道が置かれた馬を巡る状況が異なる為、何とも言えない。馬を操る技術の高さが血脈や民族で決まるのか、それとも東北の風土にあればどんな人間集団でも人馬一体の蝦夷のようになつたのだろうか。ともあれ、この馬の存在がなければ蝦夷としての東北の抵抗の歴史は全く別のものになつていたに違いない。

世に言うところの名馬として名を遺した馬は平安期の昔から少なくないが、蝦夷の地・東北ではかの阿弖流為から坂上田村麻呂の手に渡つたという阿久里黒、そして平泉藤原氏・西木戸太郎国衡の強健なる愛馬・高橋黒などの記録はあるも鎌倉期以降特に戦国時代にかけては坂東以西の記録に押されるようになる。多くの名馬を輩出した南部駒は明治期以降の去勢含む大規模な品種改良措置により純血種は絶滅、現在は青森県下北半島・尻屋崎に今も放牧される寒立馬にその遺伝子が残されるのみという。

一方で現在も育成が続く北海道和種（道産子）及び長野県の本曾馬は共に南部駒の血統が引き継がれたものであり、かつて畿内三関以東は「毛人（蝦夷）」の地とされた事を思えば未だ東国以北は「蝦夷国の馬」の血脈が息づいていると言つて過言ではあるまい。

「えみし」という固有名詞の文献での初出は『日本書紀』神武天皇即位前の条にある「久米歌」の「愛彌詩」であるが、これは東国人ではなく、畿内の先住民を指したもので、「皇軍」が滅ぼした敵対勢力を意味していた。その後中国文献である『宋書倭国伝』に倭国が「東は毛人を征すること五十五国」と記載。次に日本書紀の有名な件で、第十二代景行天皇は北陸・東国を視察した家臣・武内宿禰による「東夷の中に日高見国あり、その住民を総て蝦夷という」との報告を受け子の日本武尊（倭建命）に東征を命じる。

尊は北陸・東海でも現地勢力と戦い、現・静岡県ではその火を用いた戦いの様子が「焼津」という地名に残る。この時点での敵は、「賊」と記述され蝦夷であるか否かは不明確であるが古事記ではこの後「東国」を平定、日本書紀では更に現・宮城県域まで北上、明らかに「日高見国の蝦夷」までを屈服させた上で帰路についている。

以上のように、同じ日本書紀上で「日高見国の住民が蝦夷」と記しながら畿内の敵対勢力をも「愛彌詩」と呼ぶという矛盾があるがそもそもこの二者は明確に別物でありながら、中央との敵対者という共通点を持つ為に同じ読み方・呼び方になつていったのかも知れない。武内宿禰の言を信じれば確かに日高見国の民こそが蝦夷であり、定説に沿えば少なくとも現・茨城県以北の住民がそれに該当するという事になるだろう。

ところで文献上「蝦夷」の個人名の初出は何者であつたか―というと、やはり日本書紀内『敏達紀』における「魁帥」綾糟ではないかと思う。敏達天皇十年（西暦五八一年）、綾糟は数千の兵を率いて「辺境を侵した」罪により捕らえられ奈良に護送されるも、当時若年の聖德太子の機転によつて処刑を免れ、三輪山へ向かつて今後朝廷に叛かぬと誓うとともに泊瀬川の水を啜つた、という。

『古代東北と王権』（講談社）の中路正恒氏は後年の蝦夷・阿弖流為の悲劇は中央での聖德太子的救済者の不在であつたと語るが現在は大神神社で知られる奈良・三輪山が古来蝦夷含む列島先住民共通の聖地であり、その民族的記憶が未だ敵同士でも共有されていた時代だからこそその出来事でもしかすると阿弖流為の時代にはそうした共有認識が廃れてしまつていたのではないかと、などと個人的には疑っているのである。

それにしても綾糟が侵した「辺境」とは何処で、彼自身はどの地域を拠点とする蝦夷だったのだろうか。実は昨年、仙台市内の某カフェにおいて仙台の歴史を語り合う会、なる催しがあり参加したのだが、老若男女七、八名が集いながらこの綾糟の名を知る人は皆無であつた。何故当会会でその名を出したかというところに出の書にて中路氏は、綾糟が他ならぬ現・宮城県、名取平野以南の地域の支配者だつたのではないかと説いていたからである。是非地域の先人としてのその名の認知を広げたいと思つたが、内心あらためて確認したくなり後日調べると、綾糟は現・群馬県ゆかりの人物であるとの異説に出会つたので、考察してみた。

綾糟の群馬県由来説の出所は、東京都昭島市の発信するアーカイブスの市史記録であつた。その論拠は、綾糟が「大毛人なり」と記録されている事で、毛人とは蝦夷という表記が東北遠征時代に一般化する前段階の、関東における表記であり現・群馬県から栃木県南部は古来「毛野国」として関東でも最後まで現地勢力の独立性に富んだ地域であつた―という事である。

説得力はあるが疑問点も拭えない。中路氏が綾糟の拠点を宮城県南部に推定したのは、大和朝廷の統制下にある地である事を示す国造・制の敷かれた北限



騎射の蝦夷イメージ
(本年年賀状の為の筆者画)

が当時太平洋側では現・亘理、角田、丸森に当たる地域だつた事も根拠であつた。つまりこの地域以北は未だ朝廷管轄外、「蝦夷の国」のままだったという事である。

本来、蝦夷が朝廷側に対し防衛を越えて南下する事は珍しく、余程の事情があつたときか思えないのだが、辺境を侵す、その辺境とはこれら北限の国造制下の地域と捉えた方が自然ではないのか―と思われるのだ。

「アヤカス」という名がアイヌ語の「アエカシ（皆の長老）」を意味する可能性を考慮しても、そうした「民族的」な名前がその段階の関東に存在し得たかという疑問もある。

更にはまさに同時期に東北の別地域で起きていたある出来事との対比がある。奇遇にも、その出来事にもかの聖德太子が関わつていた―そう、我が地元でもある、現・山形県庄内地方の羽黒山開基伝説である。

※

敏達帝の異母弟である崇峻天皇が蘇我馬子によつて暗殺され、その子・蜂子皇子は従兄弟の聖德太子に匿われ、日本海へ逃れ

て出羽庄内に流れ着き、後に羽黒山始めとする出羽三山を開山する事になる―更に同時期の五八五年、現・鶴岡市に「東北鎮護の為」山王日枝神社が勧請される。これら開基・創建年代は正しいのか、能除太子とも呼ばれる出羽三山創始者は本当に蜂子皇子だったのか―いずれにせよ、この時期に未だ蝦夷国だつた境界地域へ、綾糟の件も含めるならば立て続けに中央からの干渉が為された事になる。東北鎮護の願いとは裏腹に、蝦夷が人馬一体の戦士として中央を震撼させる長い時代が始まろうとしていたのだ。



あけましておめでとうございます



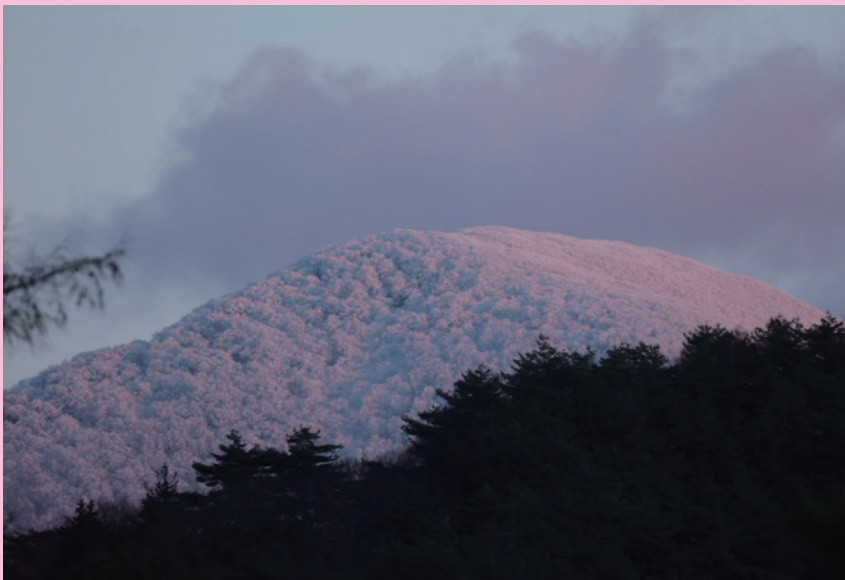
雪まくり



霧氷



窓霜



夕日に染まる六角牛山



しぶき氷

シリーズ 遠野の自然

「遠野の小寒」

遠野 1000 景より

昨年末から原稿執筆中の
今月十三日までに東北では
地震が頻発し、これらの地
震頻発が十五年前の東日本
大震災の記憶を呼び覚ます
ようでもとても薄気味悪い。
今年だけでも、十二日、
十一日、九日、八日、七日に
地震が発生し、特に十一日
は岩手県沿岸北部を震源と
するマグニチュード5.1で、
最大震度は四だった。
昨年十二月八日は青森県
で震度六強の地震が発生し、
津波注意報も発表された。
そして「北海道・三陸沖後
発地震注意情報」が初めて
発表されたが、その後は予
報が的中していると言える。
そんなことで正月早々落
ち着かないが、「余震」であ
って欲しいと願うのみだ。



しぶき氷 2



しぶき氷 3



写真で
お伝えする
東北の風景

「冬の鳥」

写真撮影
尾崎匠

